

日本福祉大学 松本オフィス

松本オフィス通信

- 第8号 -

■ 入学式&長野県人会	1	■ 第3回アート展	3
■ 学生奮戦記!	1	■ 大震災への支援の輪	3
■ あなたの街の高校訪問 - 松川高校 -	2	■ 長野県地域同窓会	3
■ わたしの仕事	2	■ 茅野市美術館	4
		■ インフォメーション	4

長野県出身の学生奮戦記!

長野県から 117名が福祉大へ

4月1日、今年はまだ桜のつぼみが揺れるなか、大学・大学院の入学式が行われ、1,500名余の新入生が参加。長野県からは、54校・117名の学生が入学しました。

式では東日本大震災の犠牲者の方たちに参加者全体で黙とうを捧げ、今年(3.11)以降、大学の門をくぐることを意味を確かめあいました。参加し

午後からは新入生ガイダンスのあと、出身地域に分かれて県人会の集いが行われました。今年度新しく会長になった北原さん(社会福祉学部3年赤穂高校出身)から歓迎のあいさつがあり、大学祭から進路相談まで、交流を強めようと呼びかけました。教職員からは日本福祉大学理事の篠田さん(伊那市・辰野高校)

県人会が歓迎会

が代表してあいさつ。そのあと、出席した新入生が一人ずつ、出身地域と抱負を語ったのですが、100名という大所帯のため、自己紹介だけで1時間半かかるといってロング交流会となりました。県人会は4月末にも焼き肉パーティー、6月にはOBの参加も得て、進路相談と交流会が開催されました。

大学生生活での発見!

社会福祉学部 保健福祉学科

3年 北原 沙也加



大学生生活の2年間はあっという間に過ぎて行きました。机に向かつて勉強することは大切ですが、しかし私は、それだけで終わらせたいいけないことをこの展覧会を通して実感しました。

中心はゼミ活動

私の大学生生活には欠かせないもので、大きな力になったのはゼミ活動です。

1年の時、人が生活する環境に興味を持ち、福祉住環境コーディネーター2級を取得しました。資格取得のために学習する中で、車椅子の種類やお風呂で用いる福祉機器など、様々な用具があることを知りました。

2年生になり、伊藤順子先生のゼミ活動の中で、毎年東京で行われている国際福祉機器展に参加し、国内外492社・団体の最新の福祉機器の実物を体感できました。学習しただけでは

何といっても県人会

大学生生活でもう一つ私にとって欠かせないのは県人会です。今年度は長野県人会の会長を務めますが、大学祭など、県人会で出会った大切な仲間と頑張つて盛りあげていきたいと思っています。

人との繋がりはとても大切なものです。大学生生活は残り2年ですが、これからも繋がりを広げ、ずっと大切にしていきたいと願っている私です。

(赤穂高校出身)

かけがえのない弓道部!

社会福祉学部 社会福祉学科

2年 小池 美穂

私は今、夢中になっていることがあります。それはサークル活動。

サークルは弓部加絵手(注)と弓道部に入っていますが、その中でも弓道に夢中です。高校からやっていたこともありですが、弓道が大好き。この1年間弓道ばかりやっていた気がします。

毎週の定期練習や試合、大会、地域の方との交流や地域行事のボランティア活動など、日福弓道部に入つて様々な経験ができました。

また日ごろの練習で仲間と一緒に朝早くから練習をし、楽しい雰囲気の中で弓道をする事ができ、上達も早く、充実した活動をする事ができています。

2年になり、先輩ができて先輩と夜遅くまで練習したり、色々教えてくれるように日々頑張りたいと思います。

(岡谷東高校出身)

注 加絵手:かえで。手話サークル



あなたの街の高校訪問

がんばる生徒会

松川高校

それは8年前から

「駅から学校までの通学路をきれいにしよう」という活動を、松川高校では生徒会中心に8年間も継続している。「駅でのマナーが悪い」、「ペットボトルやジュースの缶を道に捨てている」、そんな声が高校に寄せられ、当時の生徒会執行部が、何とかしようと全校に呼びかけて始まったそうだ。

最初はゴミをすてない！などが中心だったが、歴代の活動は進化して、とうとう昨年文化祭では、空き缶アートに挑戦。回収した空き缶で文化祭の大パネルをつくったのだ。「BE CRAZY」という文化祭スローガンを形にしたもので、BE CRAZYといっても、クレージーであれ！と言っているのではない。「美 CRAZY」で、「一人ひとりが美に対して意識を高め、きれいな学校をめざそう」(生徒会新聞から)というものだ。

空き缶活用には環境問題やリサイクルにも意識があることを示している。

今年はゴミアートだ！

そして今年の執行部はもう一步進んで、文化祭では全クラスに“ゴミアート”を提案した。ペットボトルの風車をつくり、さまざまにデザインしたパネルに取り付けて文化祭を飾ろう！というのだ。本部企画から、全クラスの競作へ。7月9、10日の今年の文化祭で発表されることになっている。ちなみに今年の文化祭テーマは「常笑喜流」。もちろん上昇気流だが、全校投票で決まった。

でも、文化祭がすべてではない。日常的に取り組みされてきた

RC活動(リサイクル&クリーン)からは回収した空き缶は、福祉施設への寄付(去年は車椅子!)やペットボトルのキャップは、途上国へのワクチンになった。

NEO活動の展開

「NEOって何?それはNEO FLOWER CHILDRENのこと。通学路のゴミを減らそう(REDUCE)！は、道をきれいにしよう(CLEAN)！へと進化してきたのだ。3年前に駅に置かれたプランターはいま通学路にも延長され、現在校内には100個、通学路に100個のプランターがある。マリーゴールド、サルビア、パンジーなど季節の花が植えられている。地元の栽培農家の方の協力を得ながら、毎日の水やり、植え替えや維持にあたっている。参加している生徒は100人以上！昨年はこの活動に、近くの小学生や保育園からも参加があったという。確かにいま松川高校の正門を入ると、マリーゴールドの花が咲いていて、第一印象は鮮やかだ。このインタビューの時、花のわきに咲いている緑の草を指して、「これは何の花?」と聞いたら、「その高さで花芽が来てませんから、雑草の一種ですね」と即座に返事が返ってきた。

(うーん、彼らは進化してると、深化もしてる。)



右から生徒会顧問の宮澤先生、生徒会長の多田成輝君と副会長の岩村直樹君。

私の仕事 ～福祉大卒業生のいま～

まず、人の話を聴ける力を

上伊那生協病院

医療福祉相談室

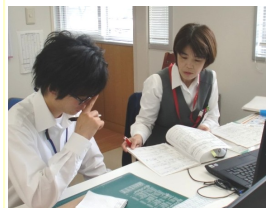
田中

ひとみ

144床の病院で医療ソーシャルワーカーをしています。医療福祉相談員、医療現場で福祉の仕事をしていきます。

誰でも病気がかかった時、誰が介護してくれるか、お金(医療費など)はあるのか、後遺症が残った場合、仕事や学校はどうするのか、社会復帰は、家で生活できるのか、家族の生活は、と不安はつきません。そういった患者さんが療養していく上で困っていることについて、相談にのり、解決にむけて一緒に関わっていくのが医療ソーシャルワーカーの仕事です。

毎朝、他のスタッフ(看護婦、介護職、リハ



実習生と入念に打ち合わせをする田中さん(右)

ピリなどとの打ち合わせから始まり、患者や家族との面談、退院に向けての関係者会議時には患者さんの自宅訪問や役場へ行くこともあり。問題解決のためには、患者、家族の力を引き出すこと、他職種専門性を生かして知恵を出し合うこと、病院外の行政の人やケアマネジャー、地域の人と連携することが不可欠です。福祉の道へ進むうとしていく皆さん、まずは人の話を聴けるようになること、人に共感できること、人と一緒に何かを創りあげるといったコミュニケーション力を身につけてください。

そのためには、多くの体験をしてほしい。部活でも恋愛でもバイトでもボランティアでも、その経験が人と話す時の幅となります。そして、少し社会にも目を向けて、自分の周りで何が起きているのか、その原因は、と常に考えてほしい。皆さんも患者さんも社会から影響を受け合って生活しているのだから。

(社会福祉学部第一部 社会福祉学科H1年度卒)

明日も来る?

知的障害児施設

長野県信濃学園

赤羽

志保

私は今春、日本福祉大学を卒業し、今は、長野県社会福祉事業団の知的障害児施設で働いています。

働き始める前は、サークル活動で自閉症の子ども達と関わっていたこともあり、利用者の方々の関係作りを甘く考えていました。

しかし、実際に働き始めて「利用者の方々の関係作り」の大変さを思い知らされました。年齢も違えば、こだわりや障害の程度も違い、言葉を使ったコミュニケーションも上手くは行きません。食事の支援につけば、中身が入っているお皿やフォークが飛び、着衣の支援に当たれば着るの嫌だ」といつ泣かれる日々が続きました。

利用者の方々の関係が出来ていないことや、甘えている事、試されている事はわかっていましたが、頭では理解していても、目の前で起きている

事を受け入れることは出来ませんでした。そんな時、職場の先輩方のアドバイスや、同じ地元で就職した大学の友人と食事に行つて話をすることで、前向きな気持ちで仕事に向かう事が出来ました。また、大学時代のテキストやレジュメを見返し、支援の参考にすることもありました。

今では、少しずつではありますが関係を築くことができ、「働く」ということの大変さを痛感しながらも、名前と呼ばれ、「明日も来る?」と聞かれることを喜びにしています。

今は関係を築くのが精一杯ですが、今後は利用者の方々の将来を視野に入れ、責任ある支援を行って行きたいと思えます。

(社会福祉学部 社会福祉学科H22年度卒)



社会人1年目、奮闘中!!

第3回障害者アート展はじまる ～松本盲学校の「書」の世界～

展示されている作品（一部）



他の展示作品は、松本オフィスブログでも公開しています。

美浜キャンパス12号館3階の特設ギャラリーで、松本盲学校の生徒たちによる「書」の作品展が開かれています。展示作品は18点。

同校では生徒のうち、先天性の視覚障害者は六割。また少なくない生徒が他の障害を併せ持っています。こうした事情から、漢字、ひらがな、カタカナをどう教えるか、盲学校においては国語とくに漢字教育には様々な工夫が凝らされてきました。

わけても「書」の学習はいつも困難を伴います。一、二、三などの記合系の文字とは異なり、山、川、木や林、森など、対象を抽象化して文字化したものを認識することが困難なためです。

今回の展示では、そうした困難を克服するために、同校で行われた実践の一つ「墨に漆喰（しつくい）を混ぜて書く、乾いたら筆の跡をなぞることができ、文字の形がわかる」を紹介しています。

点字とは異なる、線を持つ文字の魅力。小学一年生から中学三年生まで、自由にとりくんだ作品からは、文字というものに向き合うみずみずしい情感が伝わってきます。

アート展の会期は八月中旬まで。途中展示替えをしますので、早めに鑑賞を。



進路のことはまず卒業生へ

6月4日、美浜キャンパスには各県の同窓会支部長ら一〇〇名を超す卒業生が集まり、職業別別の進路相談会が行われました。長野県の相談コーナーには2年生から4年生まで、三〇名近くが参加。

「大町で高齢者ケアの分野に進みたいのですが、各施設の実践を知るにはどうしたらよいでしょうか?」「児童の分野に進みたいのですが、北信地域に限定すると厳しい!」「S総合病院が第一希望ですが、人事課に伺ったら、来

広がる大震災への支援の輪

未曾有の災害となった3.11東日本大震災と福島原発事故の被災者を支援しよう、松本の市民団体「信州の自然と福祉の会」、日本福祉大学長野県地域同窓会、日本福祉大学松本オフィスなどで構成する実行委員会によって、4月24日、松本市内で、震災支援を考えるシンポジウムとチャリティーバザーが開催されました。

シンポジウムでは、3月から支援活動を行っているNPO団体の代表の方たちなどから、救援活動の現状と、今後長期にわたって、物心両面から被災地を継続して支援していくことの大切さが語られました。

その後のチャリティーバザーでは、松本オフィスは「古本コーナー」を担当。市民から寄せられた古本と松本市内の細田書店から寄贈された1,000冊余の古書を中心に販売活動を行いました。

この本は、深刻な被害を受けた東北の図書館に対し、寄贈される予定です。

また、信濃毎日新聞5月13日朝刊紙上で、被災地に送る古書の目録作成のボランティアを募集していることが報道されたところ、4人の市民の方たちから申し出があり、オフィスでは目録作成作業が進行中です。また新たに古本が市民の方達から寄せられるなど、活動の輪が広がっています。



ボランティアの方によって、本の整理が進んでいます。



当日は、多くの方々が会場に足を運んでくれました。

長野県地域同窓会 総会 & 第2回 研究集会を開催

少し前のニュースですが、2月27日に大学同窓会の長野県支部総会と第2回研究集会が岡谷市で開かれました。こうしたスタイルで開催されるのは2年目です。今年の記念講演は、社会福祉学部教授の石川満教授。障害者自立支援法、介護保険制度の改正動向について、詳細な資料とともに政府の意向、関連審議会の特徴などが語られました。

また同窓生等からの研究論文・実践レポート発表は昨年より倍以上、8本が寄せられ、熱のこもった報告が行われました。

成年後見制度に関するもの(長野市社会福祉協議会 土屋さん)、「農業と福祉」の結びつき(くりのみ福祉会 島津さん)、上伊那地域の医療・福祉連携(上伊那生協病院 田中さん)、児童養護施設の現状と期待(松本児童園 岩田さん)、自立支援法改正法案の課題(アルプス福祉会 金澤さん)、障がい者の地域生活支援(恵仁会 清水さん)、デイサービスセンターでの表現活動(NPO法人碧き水の里 西澤さん)、障害者施設のアート活動支援(松本オフィス 津田さん)など、社会福祉の多様な展開に対応した、研究・実践の広がりを示しています。

またこの総会では、昨年の北信ブロックに続き、南信ブロック結成会が行われ、初代の南信ブロック会長には伊藤 直哉さん(伊那市社会福祉協議会)、副会長には西澤 有喜子さん(碧き水の里理事長)が承認されました。



講師の石川 満教授

「来年年度の事業計画をいま病院では基本となる事業計画を議論しており、それが人員体制、人員計画として具体化されるのは夏

前頃。現時点では未定、とか計画はない、というところでも、これから要員計画が決まって募集ということになる。最初の接触であきらめないで。」人事部長と接触するだけでなく、ワーカーのセクションと相談し、アドバイスをうけることができるようにすることがとても大事。だから、自分はどういう人間で、何をやるうといっているか、メッセージをつたえてほしい。」など一問一答式のやり取りが展開されました。

真剣な表情で話を聞く在学生



松本オフィス 移転のお知らせ

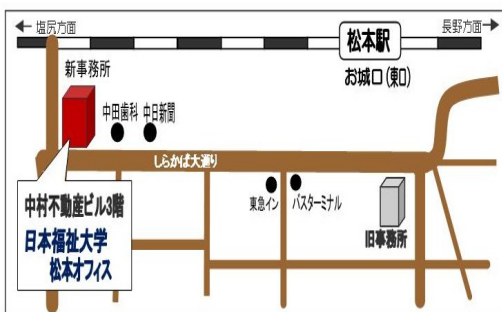
このたび、日本福祉大学松本オフィスは下記の場所へ移転しました。JR松本駅お城口(東口)より、しらかば大通りを南へ徒歩5分。室内も広くなり、学習・相談スペースも確保しています。大学のパンフレットや各入試要項はもちろん、大学で実際に使用しているテキストや文献も多数展示しています。AO入試をはじめ、入試や学生生活のことなども相談できます。



【日本福祉大学 松本オフィス周辺図】



※電話番号・FAX番号は以前のまま変更はございません。



おじいちゃん おばあちゃんを写そう！ 寿齢讃歌 -人生のマエストロ- 写真展VI

寿齢讃歌VI—人生のマエストロ— スケジュール

- 講習会
 - ・日時: 2011年7月2日(土) 14:00開演
 - ・場所: 茅野市民館コンサートホール 入場無料
 - ・内容: 応募写真の講習会 講師: 木之下 晃

- 寿齢讃歌
 - 人生のマエストロ - 写真展VI
 - ・期間: 2011年9月3日~9月19日 10:00~18:00
 - ・場所: 茅野市美術館企画展示室 入場無料

2006年より、茅野市美術館で始まった寿齢讃歌。この写真展は賞を与えるコンテストではなく、人生が映し出される高齢者の表情を大切に記録し、未来への遺産にしていきたいことを目的としています。応募作品は、モノクロデータ化し、木之下晃氏の講評を経て、茅野市美術館内に大判プリントにして展示されます。

日本福祉大学はこの企画に協賛しています。写真の技術や専門的な知識がなくても、誰でもが参加することができる企画です。

ぜひこの機会に、写真を通じて表情豊かなおじいちゃんやおばあちゃんの元気なパワーを感じてみるのはいかがでしょうか。



プロフィール
木之下 晃 Akira KINOSHITA

1936年長野県諏訪市に生まれる。諏訪青陵高校卒業後、日本福祉大学で学ぶ。中日新聞社、博報堂を経て、フリーの写真家となり、音楽関係の写真を中心に国内外で活躍。

2009年4月より、日本福祉大学客員教授。

- 詳しくは、茅野市美術館まで
茅野市美術館(茅野市民館内) 長野県茅野市塚原一丁目1番1号
TEL: 0266-82-8222 / FAX: 0266-82-8223
<http://www.chinoshiminkan.jp/index.htm>

インフォメーション

◆オープンキャンパス バスツアーのご案内

今年も、美浜・半田の両キャンパスでオープンキャンパスが開催されています。

実際に大学の様子を見たり、講義を体験をしたり、先輩達の話を聞いたり、パンフレットだけでは分からない部分を実際に自分の目で確認できる絶好のチャンスです。

また、オープンキャンパス開催に伴い、今年も松本発オープンキャンパスバスツアーの開催が決定しました。

皆様のご参加お待ちしております。

◆入試相談会 & AOガイダンス



大学ってどんな所? どんな資格が取れるの?

どんな入試方法があるの?

大学に入学しても就職はできるの?

大学に関して様々な悩みや不安をお持ちの方も多くいるかと思えます。入試から学生生活、卒業後の進路まで、大学について

□ 日時 平成23年7月24日(日) 松本駅7:20出発
塩尻駅・飯田IC前で途中乗車OK!

□ 定員 40名(先着順により定員になり次第締切ります)

□ 参加費 高校生 2,000円 保護者 4,000円

□ 申込方法 氏名・性別・生年月日・高校名・学年・

自宅電話番号・携帯電話番号・乗降場所・

興味のある学部学科を記載のうえ、

FAXまたはメールでお申し込み下さい。

バスツアー詳細は、欄外の松本オフィスブログを。

て知りたいこと、疑問に思っていること個別にご相談に応じます。

もちろん、本学が第一志望でなくても相談は可能ですので、お気軽にご相談下さい。

高校生向け相談会 & AOガイダンスは全国各地で随時開催しています。詳細日程は、HPをご覧ください。

日本福祉大学HP <http://www.n-fukushi.ac.jp/>

日本福祉大学 北信越センター松本オフィス

〒390-0815 長野県松本市深志1-1-24 中村不動産ビル3階
TEL (0263)31-9011 / FAX (0263)32-8018
E-mail e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp
<http://blog.n-fukushi.ac.jp/bc-matsumoto/>

携帯電話からも、松本オフィスブログを読むことができます。今後も最新の情報を発信していきますので、ぜひアクセスを!

(モバイル版QRコード→)



松本オフィス